CLEAR-DA Windows Type 取扱説明書

ー目　次ー

1. はじめに

1. 1 CLEAR-DA Windows Type について

本製品はハードディスク(起動ディスクを除く)、メモリカードおよびリムーバブルメディア等のデータを消去するツールです。「使用環境」、「使用上の注意」および「制限事項」をご理解の上、「使用方法」に従ってご使用いただきますようお願い申し上げます。

1. 2 使用環境

項目	内容
機種	PC/AT 互換機
OS	日本語 Windows XP, Windows Vista, Windows7, Windows8 ※コンピュータの管理者権限が必要です。管理者権限を持つユーザ名でログオンしてください。 Windows PE 4.0 64bit(日本語環境) ※Windows PE を別途作成していただく必要があります。(3 章参照)
ハードディスクの空容量	10MB以上
CD 装置	必要です。
消去対象	■IDE 接続の HDD ■Serial ATA 接続の HDD ■SCSI 接続の HDD ■IEEE1394 接続の HDD ■内蔵 FDD ■USB 接続の HDD、MO、FDD、フラッシュメモリ ■コンパクトフラッシュ、SD カード、メモリスティック等のメモリカード(内蔵カードスロットまたは USB カードリーダ接続) ※Windows でアクセスできることが前提になります(起動ディスクを除く)。

1. 3 使用上の注意

・本製品を実行したディスクの既存データは保証致しません
本製品はディスクのデータを抹消する性格上、実行対象ディスクの選定には十分ご注意ください。

・本製品実行中に本製品(CD)を抜かないでください
本製品実行中に本製品(CD)をアクセスする場合がありますので、本製品(CD)はコンピュータから抜かないでください。

・データ消去中のディスクおよびメディアは抜かないでください
本データ消去中の外付けディスク(USB 接続等)ケーブルはコンピュータから抜かないでください。外付けディスクが故障する可能性があります。データ消去中のメディア(FD、メモリカード等)は装置から抜かないでください。メディアに傷を付ける等、故障の原因になります。

・日時の確認をしてください
リアルタイムクロックの電池切れ等により日時が正しくないと、画面表示およびログファイルの消去開始時間・終了時間が不正になります。この場合は、コントロールパネルの日付と時刻のプロパティ等で日時を正しく設定してください。

・ドライブ、フォルダ および ファイルへのショートカットについて
ショートカット等のリンク先として指定されているハードディスクまたはパーティションのデータ消去を行うと、ショートカットが無効になります。ハードディスクまたはパーティション内部のフォルダやファイルへのショートカットも同様です。

・ディスクの認識容量について
USB 接続および IEEE1394 接続等の外付け HDD や MO は、OS により認識できる容量が異なる場合があります。そのために消去漏れが発生する可能性がありますので、リムーバブルディスクは Windows でフォーマット(クイック フォーマットで可)した後で消去することをお勧めします。外付けディスクは、パーティション作成およびフォーマットを行った OS 環境下で、本製品を実行してください。なお、Windows でフォーマットを実施していないメモリカード類では、この操作は必要ありません。

・電源の安定供給について
ノートPC 等 AC アダプターが必要な機種は必ず純正 AC アダプターを接続し、電源を安定供給してください。また、HDD を USB 接続するためのアダプターを使用する場合、PC の USB ポートからの電源のみで HDD を駆動すると、電力不足によってエラーが発生することがあります。別途 AC アダプターを接続する等の対応をお願いします。

・ディスクおよびメディアの再利用について
データ消去後のディスクおよびメディアはそのままでは使用できません。パーティション作成やフォーマットを実行してください。

・パーティション作成・削除後の本製品のご使用について

ディスク管理ツール等によるパーティション作成・削除後、本製品は論理ドライブ名・ボリュームラベル・ボリュームシリアル番号の認識が正しくできない場合があります。Windows を再起動後、本製品を使用してください。

・ハードディスクを消去する際のドライブ名について

消去対象が「ハードディスク（全領域）」の消去を実施すると、消去開始時にドライブ名が削除されます。
また、消去対象が「ハードディスク（パーティション）」の消去を実施すると、消去開始時にドライブ名が削除され、消去終了時にドライブ名が再割り当てされますが、消去開始前と異なるドライブ名が割り当てられる場合があります。

・外付けディスクの接続・取り外し後の本製品のご使用について

USB 接続および IEEE1394 接続等の外付けディスクの接続・取り外し後、本製品はディスク名の認識が正しくできない場合があります。また、「ハードウェアの安全な取り外し」を実行しようとするとエラーが発生する場合があります。このような場合は、Windows をシャットダウンまたは再起動してください。

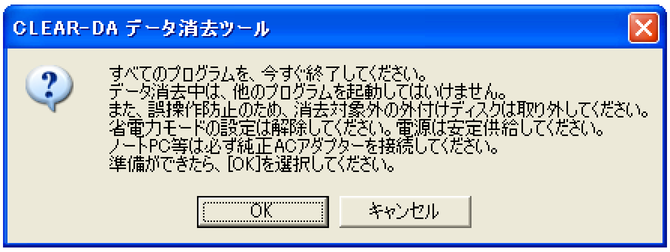
１．４　制限事項

(1) 本製品でエラーとなるセクタのデータに関してデータ消去動作は致しません。ただし、エラーセクタをスキップして、最後まで消去動作は実施します。エラー数はその都度画面に更新、表示されます。
(2) 不良セクタの自動交代処理機能(ハードディスク/BIOS)で交代される前の不良セクタのデータに関してデータ消去動作は致しません。
(3) ログファイルは本製品の動作内容/結果、および実行条件を記録するものでディスクのデータが全て消去されたことを保証するものではありません。
(4) 本製品をネットワーク経由で使用することはできません。消去対象のディスクおよび本製品をセットする CD/DVD ドライブは、ローカル接続されている必要があります。また、リモートデスクトップ接続などのネットワーク経由の動作は、保証致しません。
(5) Windows XP 環境では、セクタ数 4294967296 以上(ハードディスクでは約 2199GB 以上)のディスクは扱えません。
(6) Windows XP 環境では、GPT(GUID パーティションテーブル)方式で初期化されたハードディスクでは、パーティションを消去対象にできません。なお、ハードディスクの全領域を消去対象にすることは可能です。
(7) NTFS 形式でフォーマットされたリムーバブルディスクは、消去およびデータ表示ができない場合があります。その場合は、FAT 形式でフォーマットした後で消去してください。
(8) 本製品はダイナミックディスクに対応していません。
(9) 本製品はマルチブートに対応していません。
(10) Windows XP 環境では、ハードディスク(全領域)およびリムーバブルディスクの複数台並行消去は行えません。

2. 使用方法

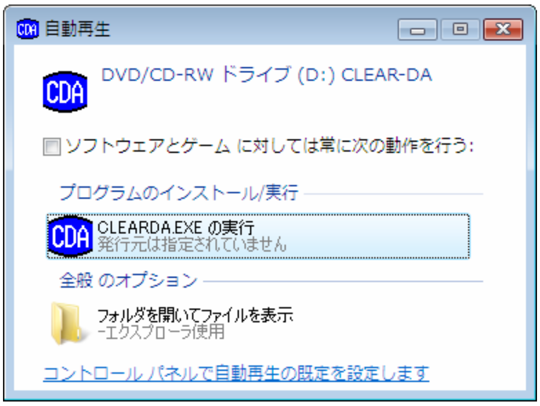
2. 1 プログラムの起動

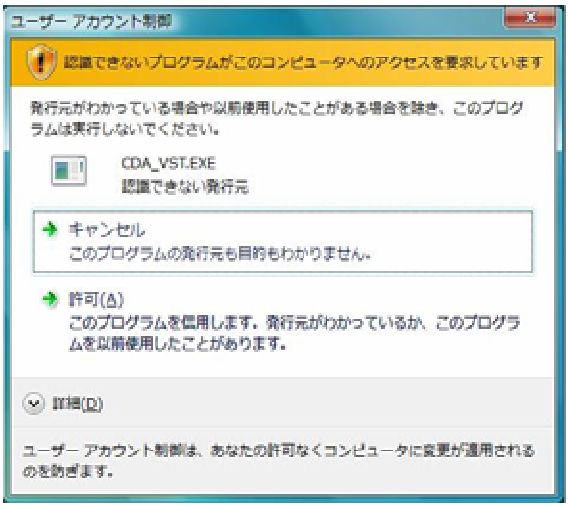
(1) 本製品(CD)を CD 装置にセット(挿入)し、しばらくすると準備画面が表示されます。



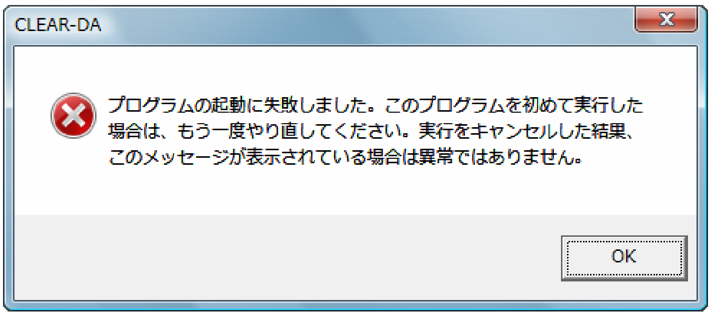
ディスクデータを消去する性格上、データ消去中は他のプログラムを終了してください。
また、誤操作により、消去対象外のディスクデータを消去する可能性がありますので、消去対象外の外付けディスクは予め取り外してください。
動作環境によっては、データ消去中に省電力モードに入り正しく消去されない場合がありますので、省電力モードの設定は解除してください。
ノート PC 等は必ず純正 AC アダプターを接続し、電源を安定供給してください。

※Windows XP 以外で起動する場合、準備画面が表示される前に下記の警告画面(自動再生 および ユーザーアカウント制御)が表示される場合があります。内容を確認して[CLEARDA.EXE の実行]および[許可]を選択してください。

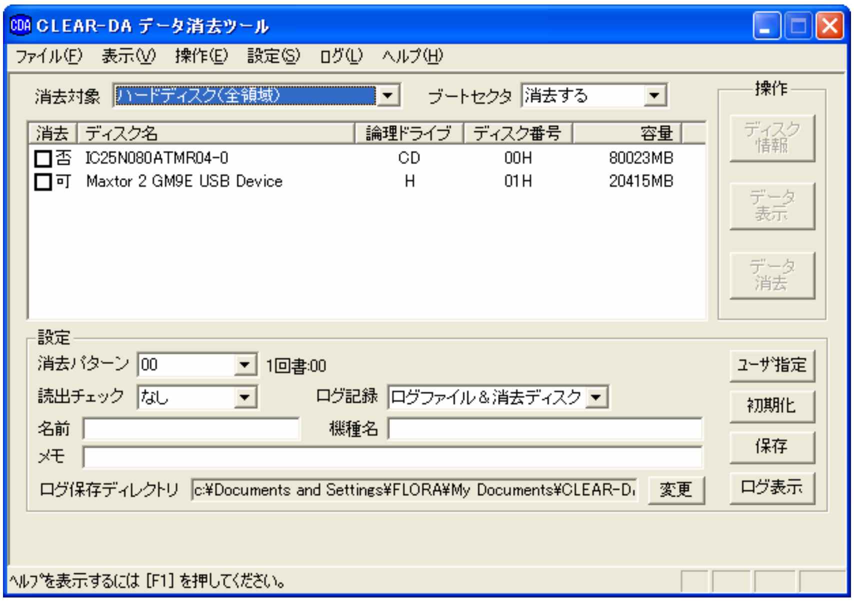




[キャンセル]を選択すると「プログラムの起動に失敗しました」のエラーメッセージが表示されますが異常ではありません。



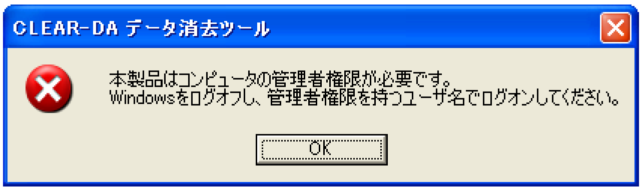
(2) 「OK」をクリックすると、起動画面が表示されます。



(3) 自動的に起動されない場合は、エクスプローラを開いて CD ドライブを表示してください。Windows XP の場合は「CLEARDA.EXE」をダブルクリックして実行してください。それ以外の Windows では「CLEARDA.EXE」を右クリックし、表示されるメニューから「管理者として実行…」を選択してプログラムを実行してください。

■管理者権限について

本製品の実行にはコンピュータの管理者権限が必要です。Windows Vista 以降では(前々ページに記載のとおり)、ユーザーアカウント制御の画面によって自動的に管理者権限が要求されます。ただし、2 回目以降の起動にもかかわらず、「プログラムの起動に失敗しました」のエラーメッセージが表示される場合(ゲストユーザーでログインしている場合など)は、Windows をログオフして管理者権限を持つユーザ名でログオンしてください。
Windows XP で管理者でないユーザ名でログオンし、本製品を起動した場合は次のメッセージが表示されます。

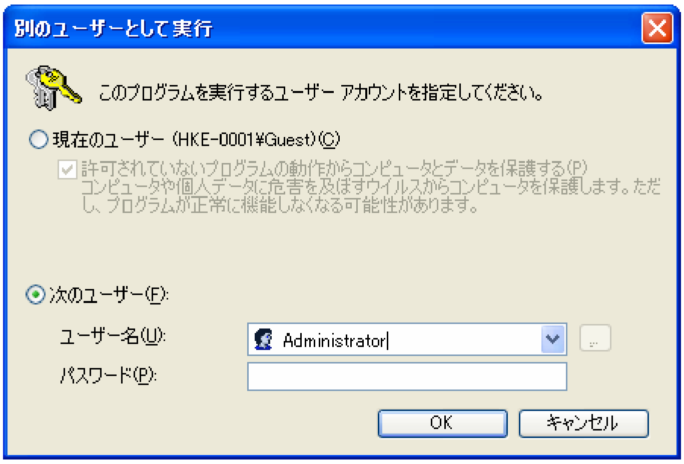


Windows をログオフし、管理者権限を持つユーザ名でログオンしてください。

Windows XP では、ログオフせずに管理者権限を持つユーザとして起動できます。
エクスプローラで CLEAR-DA をセットした CD-ROM を開き、「Clearda」のアイコンを右クリックするとメニューが表示されますので、「別のユーザーとして実行」を選択します。



「別のユーザーとして実行」をクリックすると、「別のユーザーとして実行」の画面が表示されます。「次のユーザー」のラジオボタンを選択し、管理者権限のあるユーザー名とパスワードを入力してください。



[OK]ボタンをクリックすると、(1)の準備画面が表示されます。準備画面で[OK]ボタンを選択すると、起動画面が表示されます。

2. 2 消去対象の選択

消去対象を次の3つから選択します。

消去対象	内容
ハードディスク（全領域）	ハードディスクの全領域を消去対象とします。
ハードディスク（パーティション）	ハードディスクのパーティションを消去対象とします。
リムーバブル	FD や MO 等のリムーバブルメディアを消去対象とします。

メモリカードは OS により、消去対象の選択が異なります。
OS がハードディスクとして扱う場合は消去対象をハードディスクにしてください。
OS がリムーバブルディスクとして扱う場合は消去対象をリムーバブルにしてください。

■ハードディスク（全領域）

(1) [消去対象]のコンボボックスをクリックし、「ハードディスク（全領域）」を選択します。

(2) [ブートセクタ]のコンボボックスを選択します。

項目	内容
消去する （デフォルト）	マスタブートレコードを含めた全領域をデータ消去します。通常こちらを指定してください。
消去しない	マスタブートレコード以外の全領域をデータ消去します。マスタブートレコードのデータを残したい場合はこちらを指定してください。

(3) リストボックスに本製品が認識したハードディスクの内容を表示します。



項目	内容
消去	消去選択のチェックボックスおよび消去の可否を表示します。
ディスク名	ディスク名を表示します。
論理ドライブ	ドライブ名を表示します。ドライブ名が複数ある場合はその全てを表示します。 ドライブ名がない場合はなにも表示しません。
ディスク番号	本製品が使用するディスク番号を表示します。
容量	ハードディスクの容量を表示します。

■ハードディスク（パーティション）

(1) [消去対象]のコンボボックスをクリックし、「ハードディスク（パーティション）」を選択します。

(2) [パーティション]のコンボボックスを選択します。（GPT ディスクでは選択しません。）

項目	内容
基本＆論理 （デフォルト）	基本(プライマリ)と論理パーティション(論理ドライブ)。 マスタブートレコードの基本(プライマリ)パーティションと拡張パーティション内の論理パーティション（論理ドライブ）を消去します。パーティション情報（ブートレコード）は消去しません。
基本＆拡張	基本(プライマリ)と拡張パーティション。 マスタブートレコードの基本(プライマリ)パーティションと拡張パーティションを消去します。マスタブートレコードは消去しません。拡張パーティションを指定した場合、拡張パーティション内の論理パーティション(論理ドライブ)はパーティション情報(ブートレコード)を含めすべて消去します。

(3) [ディスク名]のコンボボックスをクリックすると本製品が認識したハードディスクの一覧を表示します。消去するディスクを選択してください。
[ディスク名]のコンボボックスの右側にディスク容量およびセクタ数を表示します。

(4) リストボックスに本製品が認識したパーティションの内容を表示します。



項目	内容
消去	消去選択のチェックボックスおよび消去の可否を表示します。
レコード区分	パーティションの区分を次のように表示します。 (1)MBR ディスクの場合 基本 n:基本パーティション、n はパーティション番号(1～4)。 拡張 n:拡張パーティション、n はパーティション番号(2～4)。 拡張 n-論理 m:論理パーティション、n は所属する拡張パーティション番号(2～4)。 m は論理パーティション番号(01～24)。 (2)GPT ディスクの場合 XXX ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ(ドライブ名) (XXX はﾃﾞｰﾀ、予約、回復など)
容量	パーティションの容量を表示します。
システム(ID)	システムタイプおよび ID 番号を表示します。 システムタイプは次の通りです。 FAT12:FAT システム(12 ビット) FAT16:FAT システム(16 ビット) FAT32:FAT システム(32 ビット) NTFS :NTFS システム GPT : GPT ディスクの場合 拡張 :拡張パーティション 不明 :不明なパーティション
使用	パーティション容量が占める割合。 (パーティション容量/ハードディスク容量)×100
開始セクタ	パーティションの開始論理セクタ番号。
終了セクタ	パーティションの終了論理セクタ番号。

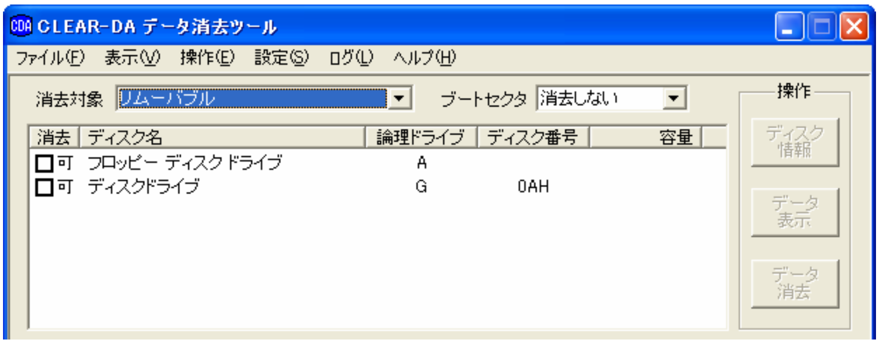
■リムーバブル

(1) [消去対象]のコンボボックスをクリックし、「リムーバブル」を選択します。

(2) [ブートセクタ]のコンボボックスを選択します。

項目	内容
消去する	ブートレコードの情報を含めた全領域をデータ消去します。 ブートレコードはフォーマットを実行すると初期化されますので、通常こちらを指定する必要はありません。 ブートレコードが消去されると、メディアが認識できなくなったり、メディアのフォーマット所要時間が長くなったりする場合があります。メディアが認識できない場合は「データ表示」による消去データの確認ができませんので、メディアをフォーマットした後で確認してください。
消去しない （デフォルト）	ブートレコード以外の全領域をデータ消去します。 データ消去後、「データ表示」による消去データの確認を確実に行いたい場合の指定です。通常こちらを指定してください。 ブートレコードはフォーマットを実行すると初期化されます。

(3) リストボックスに本製品が認識したリムーバブルディスクの内容を表示します。



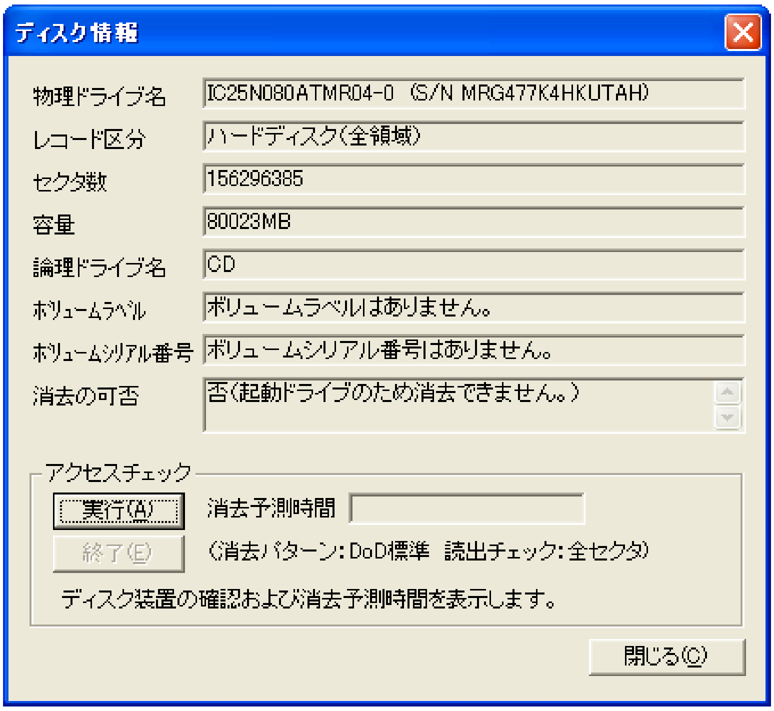
項目	内容
消去	消去選択のチェックボックスおよび消去の可否を表示します。
ディスク名	ディスク名を表示します。
論理ドライブ	ドライブ名を表示します。
ディスク番号	本製品が使用するディスク番号を表示します。
容量	容量は表示しません。

2．3　ディスク情報の表示

ディスク情報の表示、消去の可否およびアクセスチェックをします。

■ハードディスク（全領域）

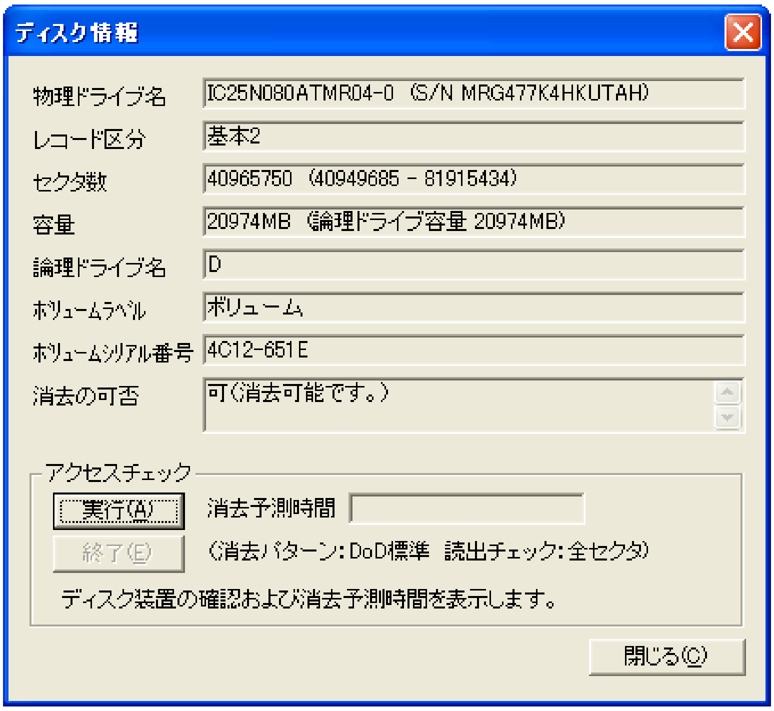
(1) リストボックス内のディスクをクリックし、選択します。
　　操作の[ディスク情報]ボタンが有効になりますので、クリックするとディスク情報が表示されます。



項目	内容
物理ドライブ名	ディスク名を表示します。 ハードディスクのシリアル番号が取得可能な場合は「(S/N xxxx)」を表示します。xxxxはシリアル番号です。取得不可の場合はなにも表示しません。
レコード区分	「**ハードディスク(全領域)**」を表示します。
セクタ数	セクタ数を表示します。
容量	容量を表示します。
論理ドライブ名	ドライブ名を表示します。ドライブ名が複数ある場合はその全てを表示します。
ﾎﾞﾘｭｰﾑﾗﾍﾞﾙ	「**ボリュームラベルはありません。**」を表示します。
ﾎﾞﾘｭｰﾑｼﾘｱﾙ番号	「**ボリュームシリアル番号はありません。**」を表示します。

■ハードディスク（パーティション）

(1) リストボックス内のパーティションをクリックし、選択します。
操作の[ディスク情報]ボタンが有効になりますので、クリックするとディスク情報が表示されます。

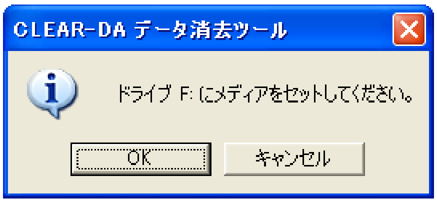


項目	内容
物理ドライブ名	ディスク名を表示します。 ハードディスクのシリアル番号が取得可能な場合は「(S/N xxxx)」を表示します。xxxxはシリアル番号です。取得不可の場合はなにも表示しません。
レコード区分	レコード区分を表示します。
セクタ数	セクタ数を表示します。セクタ数の後に「(**開始セクタ － 終了セクタ**)」を表示します。
容量	容量を表示します。 容量表示の後に「(**論理ドライブ容量　xxxx**)」を表示します。xxxxは論理ドライブ容量です。**容量と論理ドライブ容量がほぼ一致していることを確認してください(論理ドライブ容量が多少小さく表示されます)。一致しない場合は論理ドライブ名を正しく認識していません。**
論理ドライブ名	ドライブ名を表示します。 ドライブ名がない場合は「**論理ドライブ名はありません。**」を表示します。
ﾎﾞﾘｭｰﾑﾗﾍﾞﾙ	ボリュームラベルを表示します。 ボリュームラベルが取得できない場合は「**情報が取得できません。**」を表示します。
ﾎﾞﾘｭｰﾑｼﾘｱﾙ番号	ボリュームシリアル番号を表示します。 ボリュームシリアル番号が取得できない場合は「**情報が取得できません。**」を表示します。

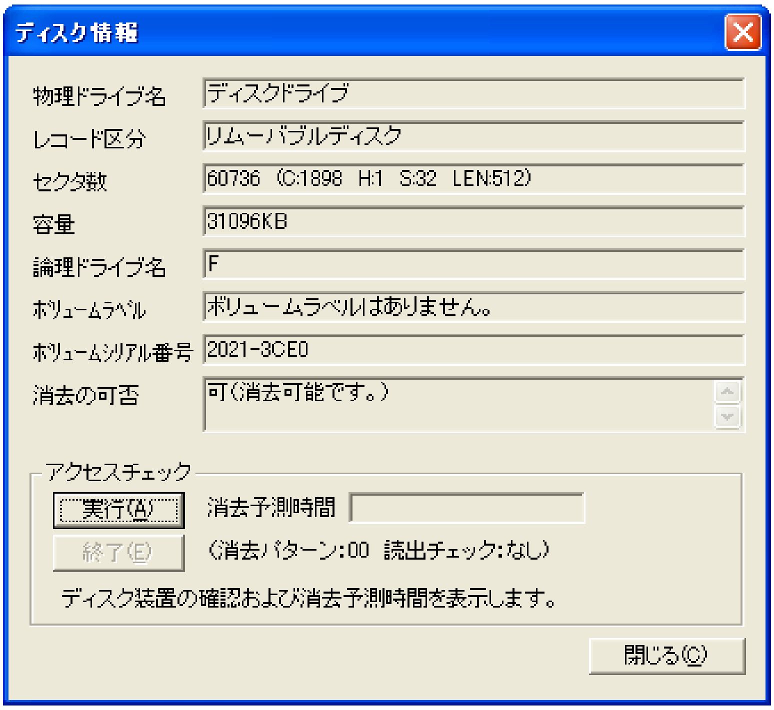
[注意]
ディスク管理ツール等によるパーティション作成・削除後、本製品は容量・論理ドライブ名・ボリュームラベル・ボリュームシリアル番号の認識が正しくできない場合があります。Windows を再起動後、本製品を使用してください。

■リムーバブル

(1) リストボックス内のディスクをクリックし、選択します。
　操作の[ディスク情報]ボタンが有効になりますので、クリックすると次のようなメッセージが表示されます。



(2) リムーバブルディスクを挿入し[OK]ボタンをクリックすると、ディスク情報が表示されます。



項目	内容
物理ドライブ名	ディスク名を表示します。
レコード区分	「**リムーバブルディスク**」を表示します。
セクタ数	セクタ数を表示します。セクタ数の後に「(**C:シリンダ数 H:ヘッド数 S: セクタ数 LEN:データ長**)」を表示します。
容量	容量を表示します。
論理ドライブ名	ドライブ名を表示します。
ボリュームラベル	ボリュームラベルを表示します。 ボリュームラベルがない場合は「**ボリュームラベルはありません。**」を表示します。 ボリュームラベルが取得できない場合は「**情報が取得できません。**」を表示します。
ボリュームシリアル番号	ボリュームシリアル番号を表示します。 ボリュームシリアル番号が取得できない場合は「**情報が取得できません。**」を表示します。

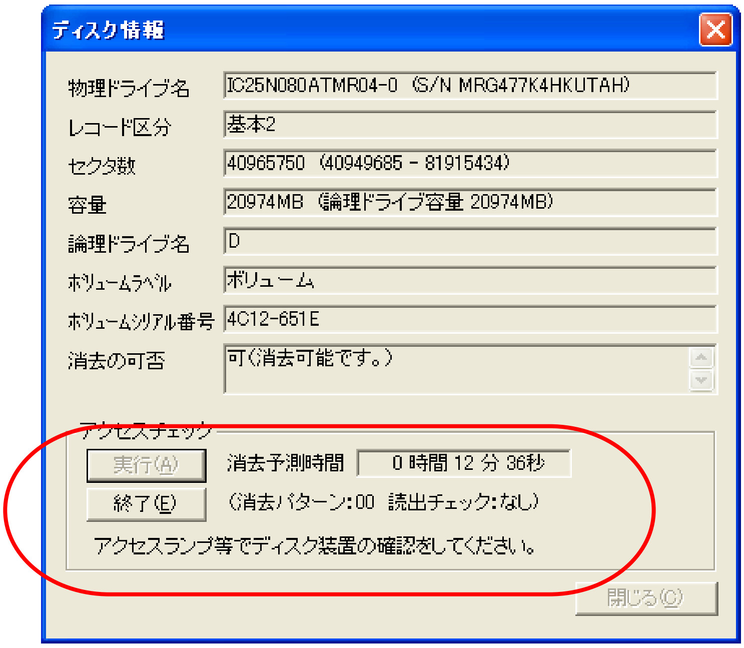
■消去の可否

(1) 消去の可否を示します。

消去の可否	内容
可(消去可能です。)	消去可能です。
否(システムドライブのため消去できません。)	Windows ドライブなどのシステムドライブは消去できません。CD BOOT Type でデータ消去してください。Windows8 セキュアブート環境のマシンは Windows PE 環境で消去してください。(3 章参照)
否(アクティブなパーティションのため消去できません。)	アクティブなパーティションは消去できません。CD BOOT Type でデータ消去してください。または、アクティブな状態を解除(パーティションを削除し、再び作成する等)して、データ消去してください。
否(ディスク容量を超えたセクタが存在します。)	別の OS でフォーマットしたディスクの可能性があります。フォーマットした OS で本製品を再起動してください。
否(ディスク番号の取得ができません。本プログラムを再起動するか、あるいはメディアを挿入したまま、Windows を再起動するとディスク番号を取得できる場合があります。)	本製品がメディアを消去するためのディスク番号が取得できていません。ディスク情報のウィンドウを閉じた後、[消去対象]のコンボボックスをクリックし、「リムーバブル」であれば一度「ハードディスク」に切り替えてください。「ハードディスク」であれば、一度「リムーバブル」に切り替えてください。それでも否のままであれば、メディアをディスク装置に挿入したまま Windows を再起動するとディスク番号を取得できる場合があります。
否(ディスクサイズを取得できません。)	ディスクおよびアダプタが正しく接続されていることを確認してください。また、リムーバブルディスクの場合は、フォーマットすると改善できる場合があります。
否(ディスク検証 NGxx です。消去はできません。)	本製品では消去できません。NGxx の xx 番号によっては対応可能な場合がありますので、本製品の問い合わせ先に連絡してください。
否(GPT 方式には対応していません。)	Windows XP 環境のみ。ハードディスクが GPT(GUID パーティションテーブル)方式で初期化されているため、パーティションを消去対象にできません。なお、ハードディスクの全領域を消去対象にすることは可能です。

■アクセスチェック

(1) アクセスチェック内の[実行]ボタンをクリックすると、ダミーリードによるディスクアクセスを行います。
アクセスランプ等でディスク装置の確認をしてください。
設定した消去パターンおよび読出チェックでの消去予測時間を表示します。消去時間の目安です。表示時間より前後することがあります。



(2) [終了]ボタンをクリックすると、アクセスチェックを終了します。

(3) [閉じる]ボタンをクリックすると、起動画面に戻ります。

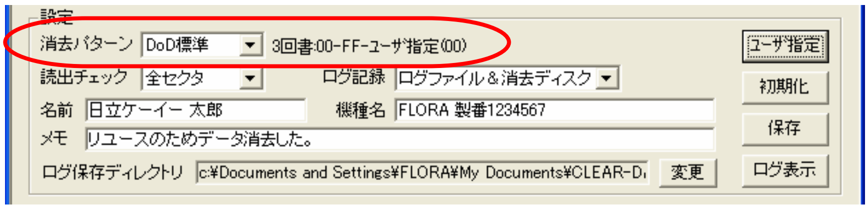
2. 4 設定値の変更

設定値の変更、初期化および保存をします。

設定	内容
消去パターン	消去パターンを設定します。
ユーザ指定データ	ユーザ指定データを設定します。
読出チェック	データ消去後の読出チェックを設定します。
ログ記録	消去結果の出力先を設定します。
名前、機種名およびメモ	名前、機種名およびメモを必要に応じて入力します。
設定値の初期化	設定値を初期化します。
設定値の保存	設定値を保存します。
ログ保存ディレクトリ	ログファイルの保存先ディレクトリを変更します。

■消去パターン

(1) [消去パターン]のコンボボックスをクリックし、消去パターンを選択します。コンボボックスの右側に書き込み回数および消去パターンを表示します。



消去パターン	内容	書込回数:パターン
00	00 パターンの書き込み	1 回書:00
FF	FF パターンの書き込み	1 回書:FF
ユーザ指定	ユーザ指定データの書き込み	1 回書:ﾕｰｻﾞ指定(xx) (xx)は指定データ(16 進 2 桁)またはﾗﾝﾀﾞﾑ
NSA 標準	2種類のランダムと 00 パターンの書き込み	3 回書:ﾗﾝﾀﾞﾑ 1-ﾗﾝﾀﾞﾑ 2-00
旧 NSA 標準	FF,00,FF,00 パターンの書き込み	4 回書:FF-00-FF-00
DoD 標準	00,FF,ユーザ指定データの書き込み	3 回書:00-FF-ﾕｰｻﾞ指定(xx)

Nato 標準	00,FF,00,FF,00,FF,ユーザ指定データの書き込み	7 回書:00-FF-00-FF-00-FF-ﾕｰｻﾞ指定(xx)
DoD2 標準	00,FF, ランダムの書き込みおよび検証	3 回書:00-FF-ﾗﾝﾀﾞﾑ-検証
ランダム	ランダムパターンの書き込み	1 回書:ﾗﾝﾀﾞﾑ
ランダム-00	ランダム,00 パターンの書き込み	2 回書:ﾗﾝﾀﾞﾑ-00

■ユーザ指定データ

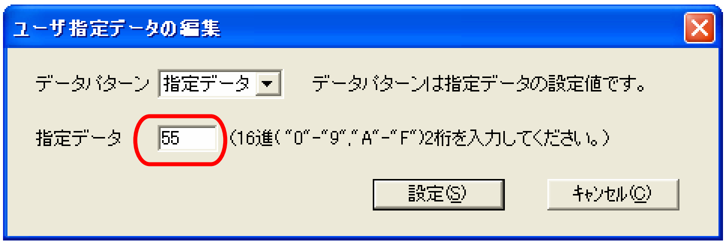
ユーザ指定データは消去パターンが「ユーザ指定」、「DoD 標準」または「Nato 標準」のときの最後の書き込みデータとなります。

(1) [ユーザ指定]ボタンをクリックすると、「ユーザ指定データの編集」のウインドウが表示されます。

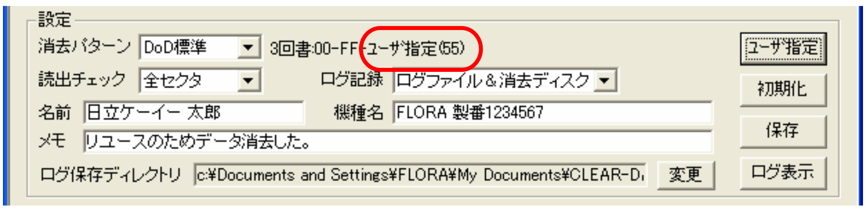
(2) [データパターン]のコンボボックスをクリックし、データパターンの選択をします。

データパターン	内容
指定データ	データパターンは指定データとします
ランダム	データパターンはランダム(乱数)とします

(3) 指定データは[指定データ]のテキストボックスに 16 進2桁を入力します。



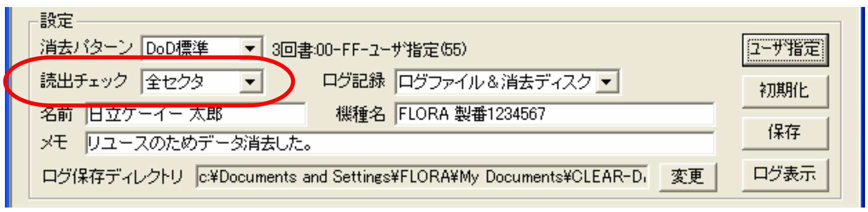
(4) [設定]ボタンをクリックすると、ユーザ指定データを登録し、起動画面に戻ります。



(5) [キャンセル]ボタンをクリックすると、ユーザ指定データを登録しないで、起動画面に戻ります。

■読出チェック

(1) [読出チェック]のコンボボックスをクリックし、読出チェックを選択します。

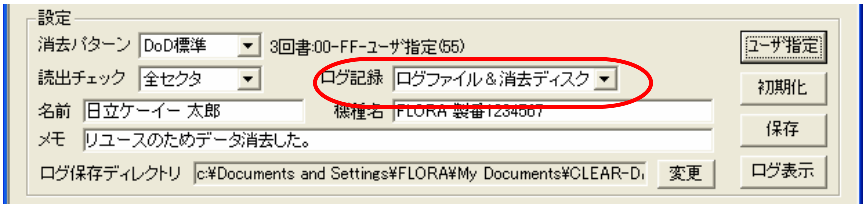


読出チェック	内容
なし	消去後の読み出しチェックを実施しない
全セクタ	消去後の読み出しチェックを全セクタ実施する
1パーセント	消去後の読み出しチェックを1パーセント実施する

※消去パターンが DoD2 標準の場合、読出チェックは「全セクタ」に固定されます。

■ログ記録

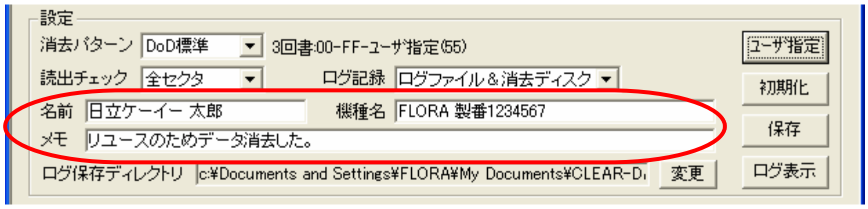
(1) [ログ記録]のコンボボックスをクリックし、ログ記録を選択します。



ログ記録	内容
ログファイル＆消去ディスク	消去結果の出力先をログファイルおよび消去ディスクにする
ログファイル	消去結果の出力先をログファイルにする

■名前、機種名およびメモ

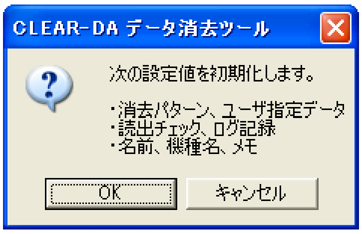
(1) [名前]、[機種名]および[メモ]のテキストボックスは必要に応じて入力します。



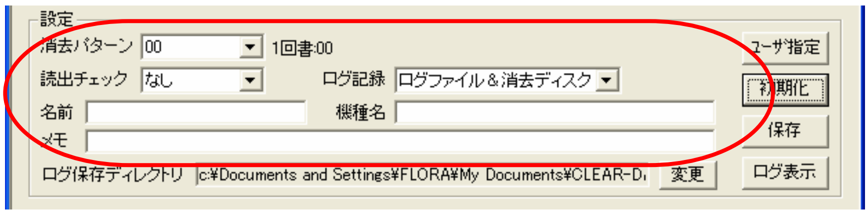
項目	内容
名前	本製品の使用者名(又は消去実施担当者名)
機種名	消去実施コンピュータの機種名/製造番号
メモ	メモ

■設定値の初期化

(1) [初期化]ボタンをクリックすると、次のメッセージボックスが表示されます。



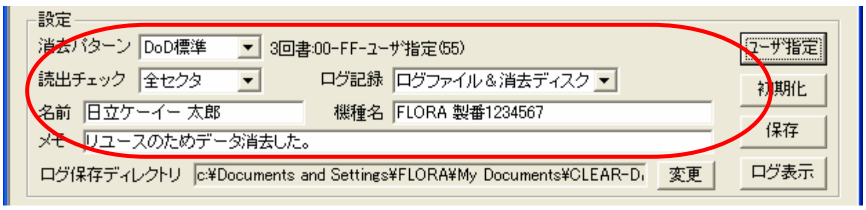
(2) [OK]ボタンをクリックすると設定値を初期化します。



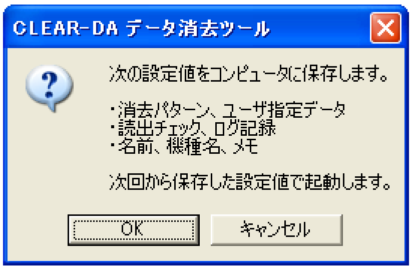
項目	内容
消去パターン	00
ユーザ指定データ	00
読出チェック	なし
ログ記録	ログファイル＆消去ディスク
名前	スペースクリア
機種名	スペースクリア
メモ	スペースクリア

■設定値の保存

(1) 設定の内容が次のような場合を想定します。



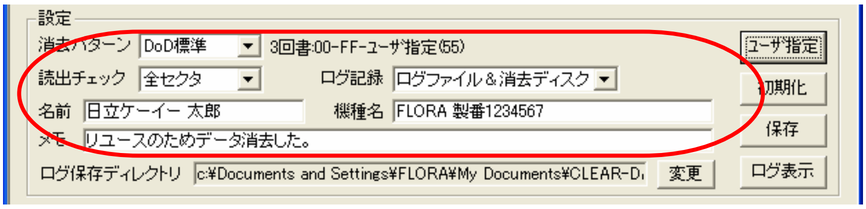
(2) [保存]ボタンをクリックすると、次のメッセージボックスが表示されます。



(3) [OK]ボタンをクリックすると設定値をコンピュータに保存します。

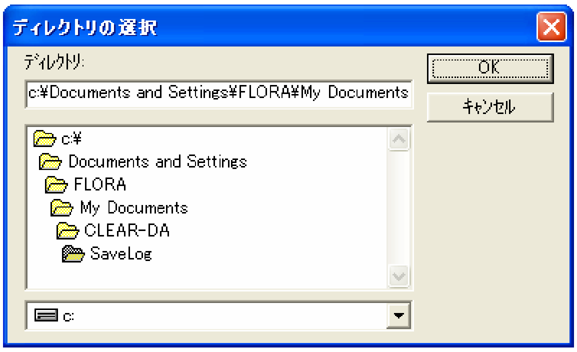
保存項目
消去パターン
ユーザ指定データ
読出チェック
ログ記録
名前
機種名
メモ

(4) 本製品再起動時の設定内容は次のようになります。

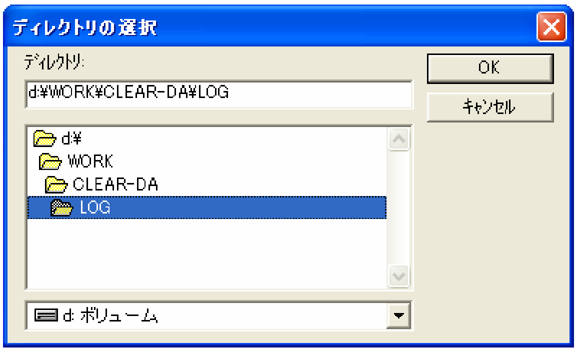


■ログ保存ディレクトリ

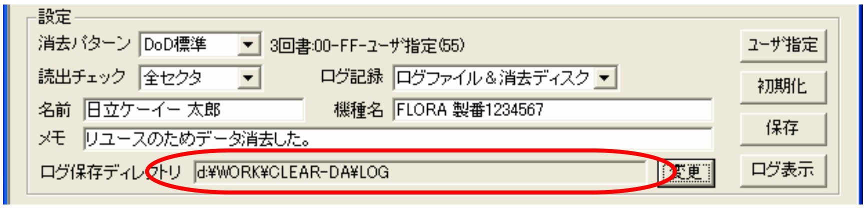
(1) ログファイルの保存先ディレクトリ(フォルダ)を変更します。[変更]ボタンをクリックすると、「ディレクトリの選択」のウインドウが表示されます。



(2) 変更したいディレクトリを選択します。



(3) [OK]ボタンをクリックすると、ログ保存ディレクトリは変更されます。



※ログ保存ディレクトリの初期設定は、以前のバージョンと異なります。ただし、以前のバージョンでログ保存ディレクトリを変更している場合は、その設定が優先されます。

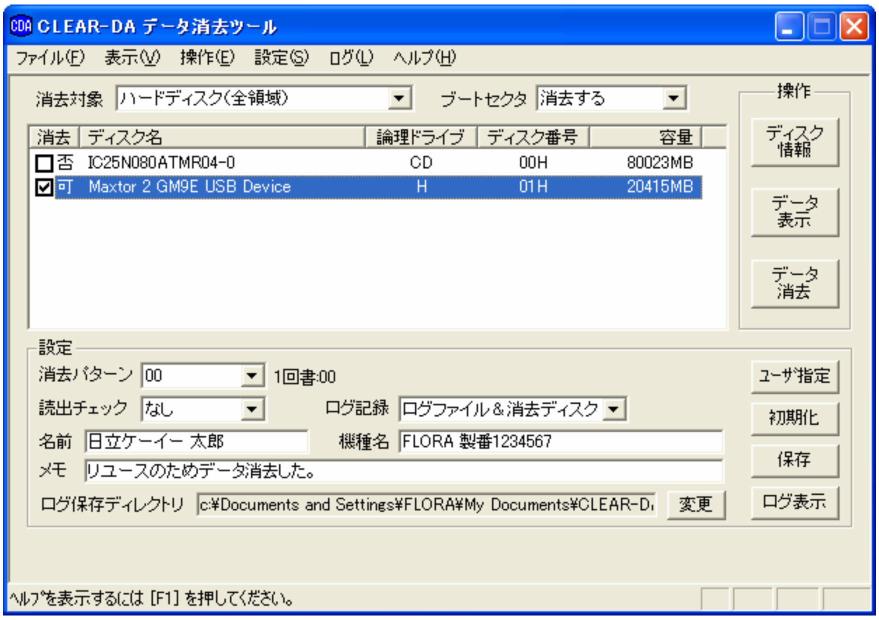
2. 5 データ消去

指定したディスクまたはメディアのデータ消去をします。消去したデータの回復はできませんので、消去対象の指定には十分注意してください。

消去対象	内容
ハードディスク(全領域)	ハードディスクの全領域を消去対象とします。
ハードディスク(パーティション)	ハードディスクのパーティションを消去対象とします。
リムーバブル	FDやMO等のリムーバブルメディアを消去対象とします。

■ハードディスク(全領域)

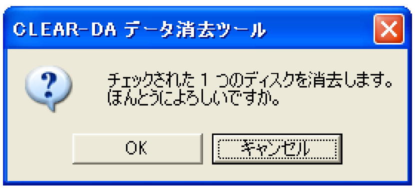
(1) リストボックス内のディスクのチェックボックスをクリックし、チェックを入れます。チェックを入れたディスクを消去することになります。複数のディスクを選択できます。Windows XP 環境以外では、4つのディスクまで並行で消去できます。消去中はパーティション消去やリムーバブルメディア消去は出来ません。



(2) [データ消去]ボタンをクリックすると、確認メッセージを表示します。

(3) [OK]ボタンをクリックすると、データ消去を開始します。データ消去が完了すると終了メッセージを表示します。

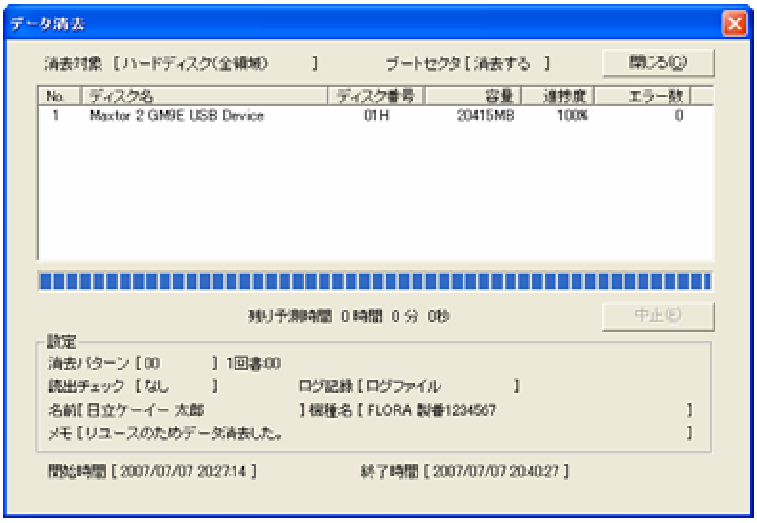
【確認メッセージ】



【終了メッセージ】



(4) [OK]ボタンをクリックするとデータ消去画面に戻ります。



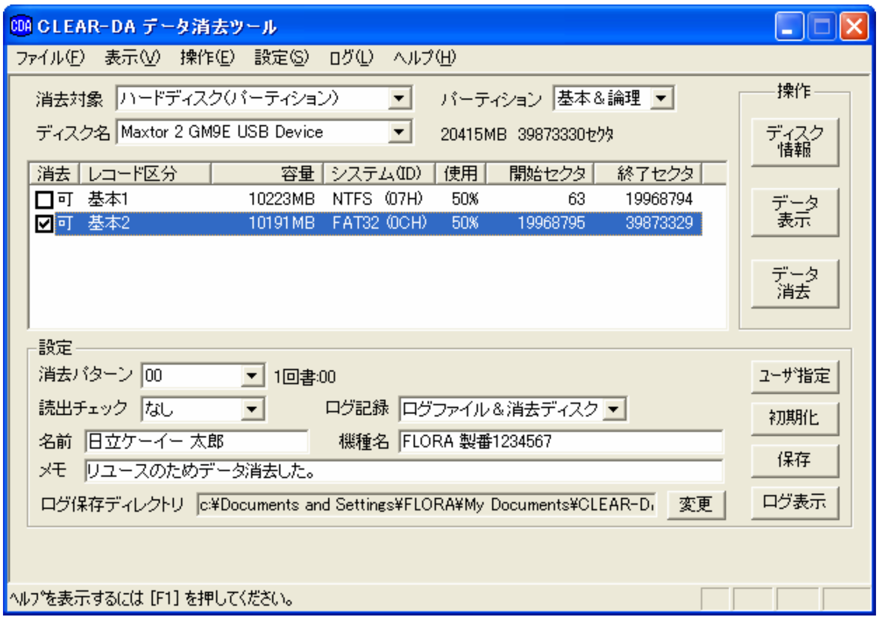
Windows XP 以外では、データ消去画面はディスクごとに表示し、消去ログもディスクごとに出力します。

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>消去対象</td><td>「ハードディスク(全領域)」を表示します。</td></tr>
<tr><td>ブートセクタ</td><td>「消去する」または「消去しない」を表示します。</td></tr>
<tr><td>リストボックス</td><td>消去ディスクを表示します。
<table>
<tr><td>No.</td><td>消去ディスク番号、1から順番に表示します。</td></tr>
<tr><td>ディスク名</td><td>ディスク名を表示します。</td></tr>
<tr><td>ディスク番号</td><td>ディスク番号を表示します。</td></tr>
<tr><td>容量</td><td>ディスク容量を表示します。</td></tr>
<tr><td>進捗度</td><td>消去の進捗度をパーセント表示します。</td></tr>
<tr><td>エラー数</td><td>消去(または読出チェック)時のエラー発生数(セクタ)を表示します。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>プログレスバー</td><td>データ消去進捗度(全体)をバーで表示します。</td></tr>
<tr><td>残り予測時間</td><td>残り予測時間を表示します。</td></tr>
<tr><td>設定</td><td>次の設定内容を表示します。
「消去パターン」、「読出チェック」、「ログ記録」、「名前」、「機種名」および「メモ」</td></tr>
<tr><td>開始時間</td><td>開始日時を表示します。</td></tr>
<tr><td>終了時間</td><td>データ消去時に終了日時を表示します。</td></tr>
</table>

(5) [閉じる]ボタンをクリックすると、起動画面に戻ります。

■ハードディスク(パーティション)

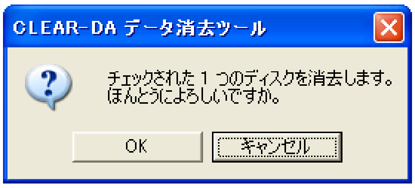
(1) リストボックス内のパーティションのチェックボックスをクリックし、チェックを入れます。チェックを入れたパーティションを消去することになります。複数のパーティションを選択できます。複数のハードディスクのパーティションを同時に消去することはできません。パーティション消去中はハードディスク消去やリムーバブルメディア消去はできません。



(2) [データ消去]ボタンをクリックすると、確認メッセージを表示します。

(3) [OK]ボタンをクリックすると、データ消去を開始します。データ消去が完了すると終了メッセージを表示します。

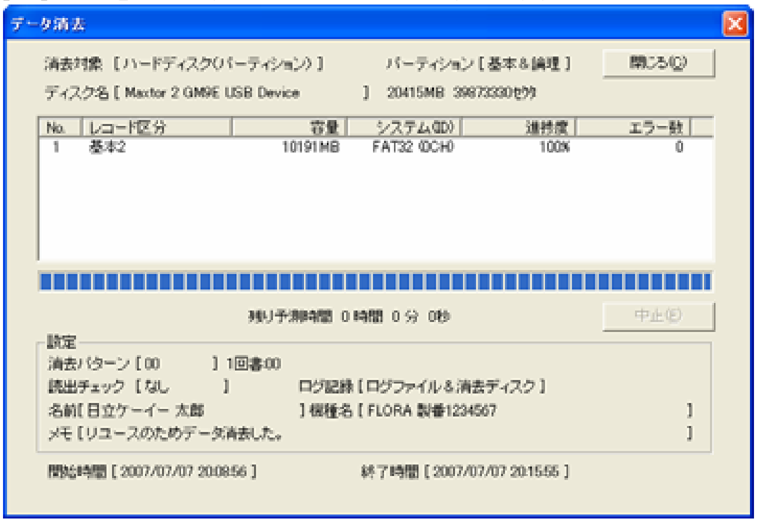
【確認メッセージ】



【終了メッセージ】



(4) [OK]ボタンをクリックするとデータ消去画面に戻ります。

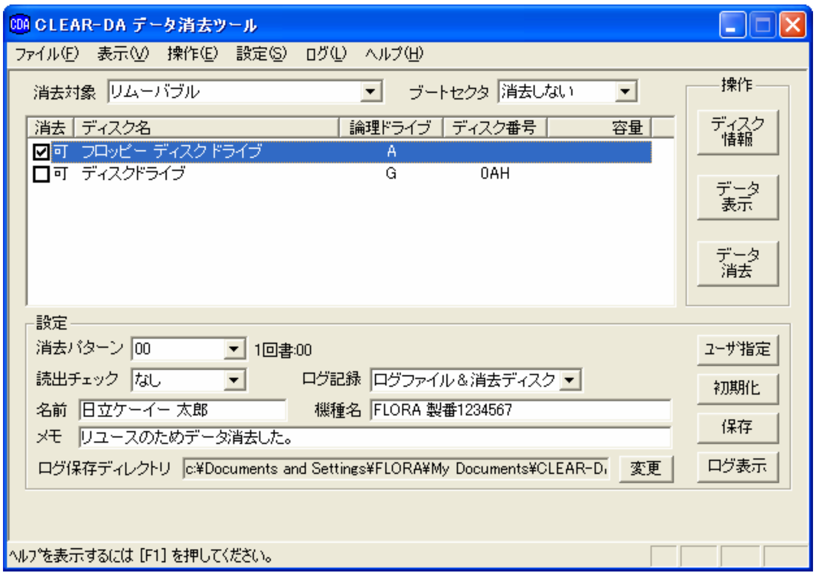


<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>消去対象</td><td>「ハードディスク(パーティション)」を表示します。</td></tr>
<tr><td>パーティション</td><td>MBR ディスクの場合、「基本＆論理」または「基本＆拡張」を表示します。</td></tr>
<tr><td>ディスク名</td><td>ディスク名を表示します。</td></tr>
<tr><td>リストボックス</td><td>消去パーティションを表示します。
<table>
<tr><td>No.</td><td>消去パーティション番号、1から順番に表示します。</td></tr>
<tr><td>レコード区分</td><td>レコード区分を表示します。</td></tr>
<tr><td>容量</td><td>ディスク容量を表示します。</td></tr>
<tr><td>システム(ID)</td><td>システムタイプおよび ID 番号を表示します。</td></tr>
<tr><td>進捗度</td><td>消去の進捗度をパーセント表示します。</td></tr>
<tr><td>エラー数</td><td>消去(または読出チェック)時のエラー発生数(セクタ)を表示します。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>プログレスバー</td><td>データ消去進捗度(全体)をバーで表示します。</td></tr>
<tr><td>残り予測時間</td><td>残り予測時間を表示します。</td></tr>
<tr><td>設定</td><td>次の設定内容を表示します。
「消去パターン」、「読出チェック」、「ログ記録」、「名前」、「機種名」および「メモ」</td></tr>
<tr><td>開始時間</td><td>開始日時を表示します。</td></tr>
<tr><td>終了時間</td><td>データ消去時に終了日時を表示します。</td></tr>
</table>

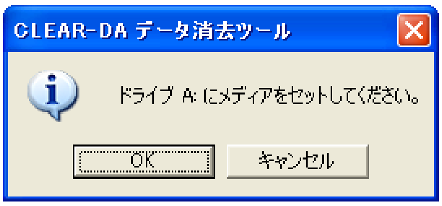
(5) [閉じる]ボタンをクリックすると、起動画面に戻ります。

■リムーバブル

(1) リストボックス内のディスクのチェックボックスをクリックし、チェックを入れます。チェックを入れたディスクを消去することになります。Windows XP 環境では 1 度に1つのディスクしか消去できません。Windows XP 環境以外では、4つのディスクまで並行で消去できます。消去中はハードディスク消去やパーティション消去は出来ません。



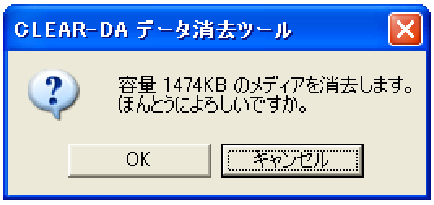
(2) [データ消去]ボタンをクリックすると、メディアの挿入を促すメッセージを表示します。



(3) メディアを挿入し[OK]ボタンをクリックすると、メディアの容量の確認メッセージを表示します。

(4) [OK]ボタンをクリックすると、データ消去を開始します。データ消去が完了すると終了メッセージを表示します。

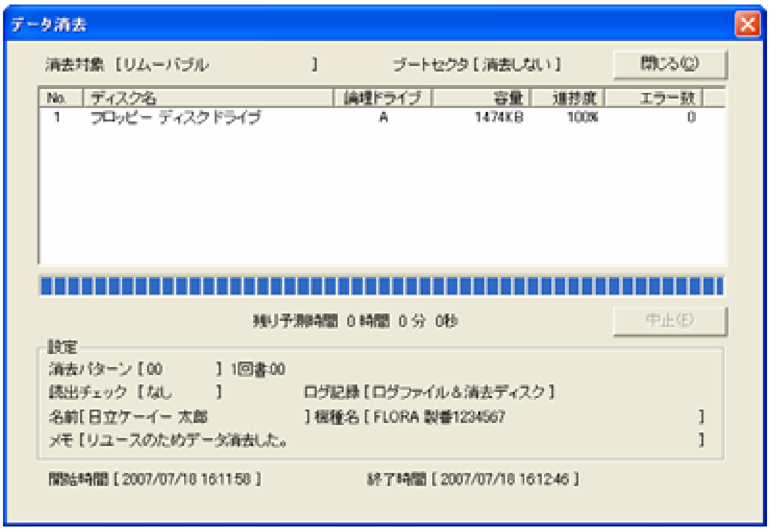
【確認メッセージ】



【終了メッセージ】



(5) [OK]ボタンをクリックするとデータ消去画面に戻ります。



<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>消去対象</td><td>「リムーバブル」を表示します。</td></tr>
<tr><td>ブートセクタ</td><td>「消去する」または「消去しない」を表示します。</td></tr>
<tr><td>リストボックス</td><td>消去ディスクを表示します。
<table>
<tr><td>No.</td><td>消去ディスク番号 1 を表示します。</td></tr>
<tr><td>ディスク名</td><td>ディスク名を表示します。</td></tr>
<tr><td>論理ドライブ</td><td>論理ドライブを表示します。</td></tr>
<tr><td>容量</td><td>ディスク容量を表示します。</td></tr>
<tr><td>進捗度</td><td>消去の進捗度をパーセント表示します。</td></tr>
<tr><td>エラー数</td><td>消去(または読出チェック)時のエラー発生数(セクタ)を表示します。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>プログレスバー</td><td>データ消去進捗度(全体)をバーで表示します。</td></tr>
<tr><td>残り予測時間</td><td>残り予測時間を表示します。</td></tr>
<tr><td>設定</td><td>次の設定内容を表示します。
「消去パターン」、「読出チェック」、「ログ記録」、「名前」、「機種名」および「メモ」</td></tr>
<tr><td>開始時間</td><td>開始日時を表示します。</td></tr>
<tr><td>終了時間</td><td>データ消去時に終了日時を表示します。</td></tr>
</table>

(6) [閉じる]ボタンをクリックすると、起動画面に戻ります。

■データ消去の中止

(1) データ消去を中止する場合は[中止]ボタンをクリックします。次のメッセージボックスが表示されます。



メッセージボックス表示中も、バックグランドでデータを消去しています。

(2) [OK]ボタンをクリックすると、消去を中止し、次のメッセージボックスを表示します。



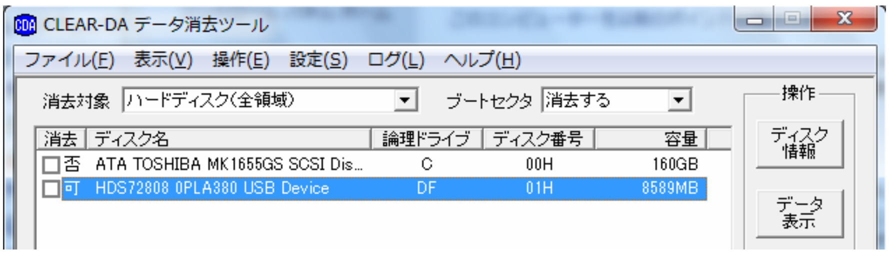
(3) [OK]ボタンをクリックすると、「データ消去」の画面に戻ります。
データ消去が完了したディスクがある場合、そのディスクの先頭にログ情報が書き込まれます。また、ログファイルはログ保存ディレクトリに書き込まれます。

2. 6 データ表示

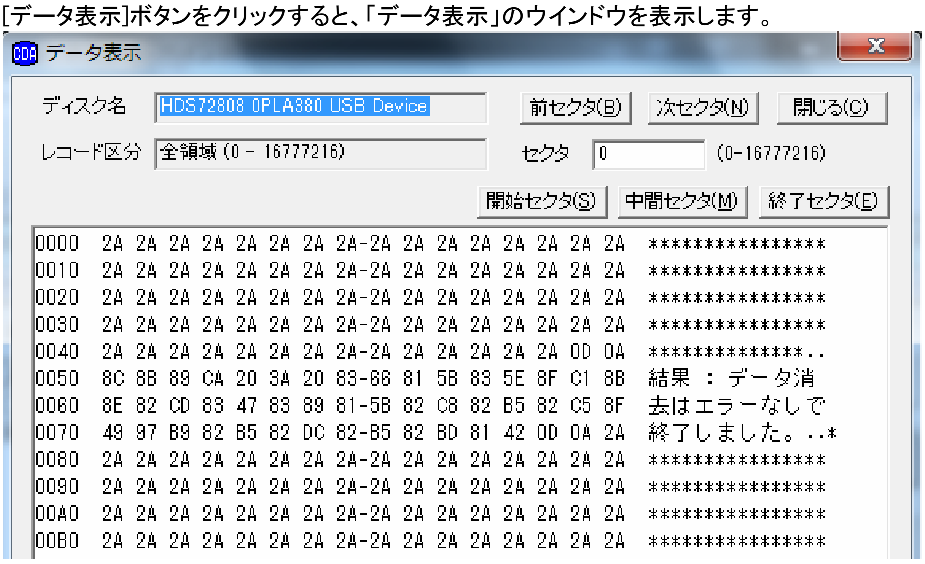
ディスクデータを表示することにより、消去したデータの確認ができます。

■ハードディスク(全領域)

(1) リストボックス内のディスクをクリックします。



(2) [データ表示]ボタンをクリックすると、「データ表示」のウインドウを表示します。

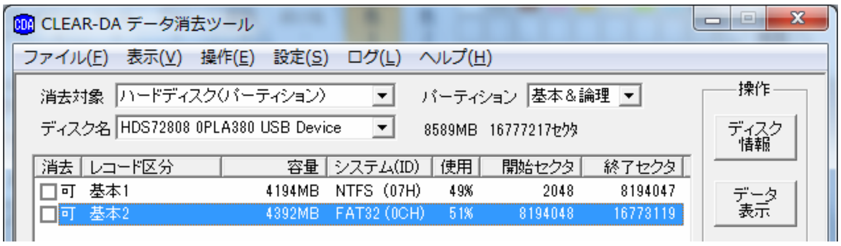


項目	内容
ディスク名	ディスク名を表示します。
レコード区分	「全領域(開始セクタ-終了セクタ)」を表示します。 開始セクタ-終了セクタは全領域の論理セクタ番号を表示します。
セクタ	データ表示の論理セクタ番号を示します。 セクタ番号を入力し、Enter キーを入力すると、指定したセクタ番号のデータを表示します。
[前セクタ]	[前セクタ]ボタンをクリックすると、1つ前のセクタデータを表示します。
[次セクタ]	[次セクタ]ボタンをクリックすると、次のセクタデータを表示します。
[開始セクタ] [中間セクタ] [終了セクタ]	ボタンをクリックすると、ディスクの開始、中間、終了セクタをそれぞれ表示します。 データ消去後、開始セクタにはログ情報が格納されています(ログをディスクに出力し、ブートセクタを消去する設定にしている場合)。
テキストボックス	左からデータアドレス、16進データおよび文字列を表示します。
サイズ変更	「データ表示」ウインドウの右下にマウスを移動し、左ボタンを押しながらマウスを移動すると、ウインドウのサイズ変更ができます。

(3) [閉じる]ボタンをクリックすると、起動画面に戻ります。

■ハードディスク(パーティション)

(1) リストボックス内のディスクをクリックします。



(2) [データ表示]ボタンをクリックすると、「データ表示」のウインドウを表示します。

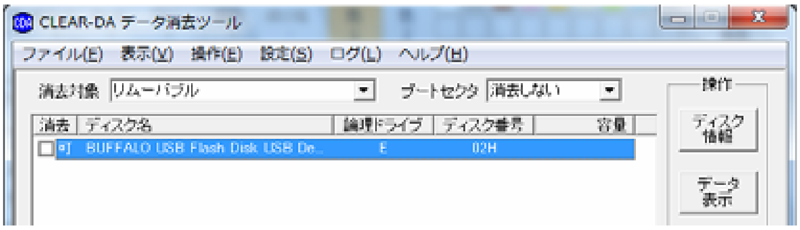


項目	内容
ディスク名	ディスク名を表示します。
レコード区分	「レコード区分(開始セクタ-終了セクタ)」を表示します。 開始セクタ-終了セクタは選択パーティションの論理セクタ番号を表示します。
セクタ	選択パーティションの先頭セクタを表示します。 セクタ番号を入力し、Enter キーを入力すると、指定したセクタ番号のデータを表示します。
[前セクタ]	[前セクタ]ボタンをクリックすると、1つ前のセクタデータを表示します。
[次セクタ]	[次セクタ]ボタンをクリックすると、次のセクタデータを表示します。
[開始セクタ] [中間セクタ] [終了セクタ]	ボタンをクリックすると、パーティションの開始、中間、終了セクタをそれぞれ表示します。 データ消去後、消去先頭パーティションの開始セクタにはログをハードディスクに出力する設定にしている場合、ログ情報が格納されています。
テキストボックス	左からデータアドレス、16進データおよび文字列を表示します。
サイズ変更	「データ表示」ウインドウの右下にマウスを移動し、左ボタンを押しながらマウスを移動すると、ウインドウのサイズ変更ができます。

(3) [閉じる]ボタンをクリックすると、起動画面に戻ります。

■リムーバブル

(1) リストボックス内のディスクをクリックします。



(2) [データ表示]ボタンをクリックすると、メディアの挿入を促すメッセージを表示します。

(3) [OK]ボタンをクリックすると、「データ表示」のウインドウを表示します。



項目	内容
ディスク名	ディスク名を表示します。
レコード区分	「全領域（開始セクタ-終了セクタ）」を表示します。 開始セクタ-終了セクタは全領域の論理セクタ番号を表示します。
セクタ	データ表示の論理セクタ番号を示します。 セクタ番号を入力し、Enter キーを入力すると、指定したセクタ番号のデータを表示します。
[前セクタ]	[前セクタ]ボタンをクリックすると、1つ前のセクタデータを表示します。
[次セクタ]	[次セクタ]ボタンをクリックすると、次のセクタデータを表示します。
[開始セクタ] [中間セクタ] [終了セクタ]	ボタンをクリックすると、ディスクの開始、中間、終了セクタをそれぞれ表示します。 データ消去後、開始セクタにはブートセクタの情報が表示されます。ブートセクタを消去する設定の場合には、ログ情報が格納されます。（メディアにログを残す設定の場合）
テキストボックス	左からデータアドレス、16進データおよび文字列を表示します。
サイズ変更	「データ表示」ウインドウの右下にマウスを移動し、左ボタンを押しながらマウスを移動すると、ウインドウのサイズ変更ができます。

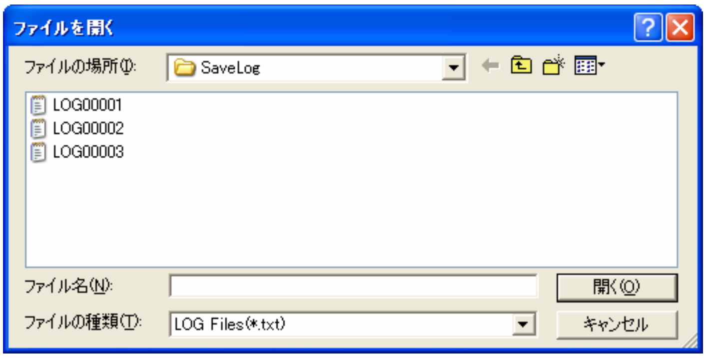
(4) [閉じる]ボタンをクリックすると、起動画面に戻ります。

2. 7　ログ表示

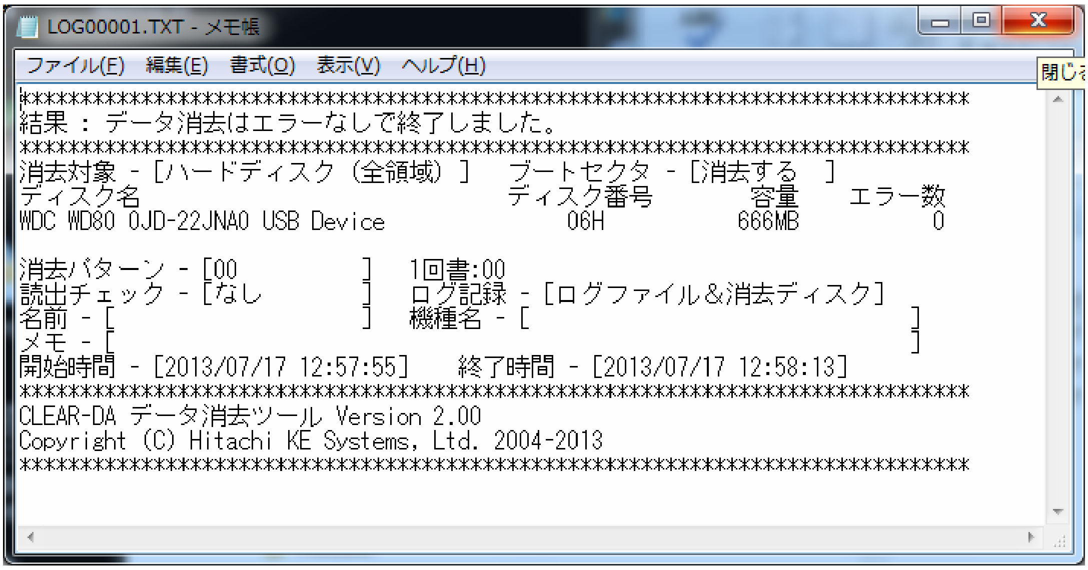
データ消去結果をログ保存ディレクトリにテキストファイルとして記録します。
ファイル名は「LOGxxxxx.TXT」で、xxxxxは00001, 00002,・・・・の順番になります。
また、ログ記録に「消去ハードディスク」を指定した場合は、消去領域の先頭セクタにデータ消去結果を記録します。
※ログ保存ディレクトリの初期設定は以前のバージョンと異なりますので、以前のバージョンで保存したログは一覧に表示されない場合があります。

■ログファイル表示

(1) [ログ表示]ボタンをクリックすると、「ファイルを開く」のウインドウを表示します。
(2) ログファイルの一覧が表示されますので、参照したいファイル名をダブルクリックします。



(3) クリックしたログファイルがメモ帳で開かれます。



(4) ログファイル確認後はメモ帳を終了してください。

■ハードディスク(全領域)

ログ情報は次のようになります。

```
*******************************************************************************
結果 : xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
*******************************************************************************
消去対象 - [ハードディスク (全領域) ]   ブートセクタ - [xxxxxxxxxx]
ディスク名                              ディスク番号      容量    エラー数
xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx         xxx        xxxxxxxx      xxxxxx
(S/N xxxx)
                                              :
xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx         xxx        xxxxxxxx      xxxxxx
(S/N xxxx)

消去パターン - [xxxxxxxxxxxx]   xxxxx:xxxxxxxxxxx
読出チェック - [xxxxxxxxxxxx]   ログ記録 - [xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx]
名前 - [xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx]   機種名 - [xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx]
メモ - [xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx]
開始時間 - [xxxx/xx/xx xx:xx:xx]    終了時間 - [xxxx/xx/xx xx:xx:xx]
*******************************************************************************
CLEAR-DA データ消去ツール Version x.xx
Copyright (C) Hitachi KE Systems, Ltd.xxxx
*******************************************************************************
```

項目	内容
結果	「データ消去はエラーなしで終了しました。」 ハードディスクにエラーがなくデータ消去は終了しました。 「いくつかのディスクエラーは発生しましたが、データ消去は終了しました。」 ハードディスクのアクセスエラーが発生しましたが、アクセスエラー箇所をスキップして最後までデータ消去を実施しました。 「検証エラーが発生しました。データ消去はできていない可能性があります。」 検証(比較)エラーが発生しました。書き込みデータと読み出しデータが一致していないため、データの書き込み(消去)が正常にできていない可能性があります。
ディスク名	消去完了したディスク名。注)ディスクへの書き込みは該当ディスクの結果のみ
S/N xxxx	ハードディスクのシリアル番号。シリアル番号を取得できない場合は書き込まれません。

■ハードディスク(パーティション)

ログ情報は次のようになります。

```
*******************************************************************************
結果 : xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
*******************************************************************************
消去対象 --- [ハードディスク (パーティション) ]  パーティション - [xxxxxxxxxx]
ディスク名 - [xxxxxxxxxxxxxxxxx]  xxxxxxx  xxxxxxxx ｾｸﾀ
           (S/N xxxx)
レコード区分          容量 システム(ID) 使用     エラー数  セクタ
xxxxxxxxxxx        xxxxxxx  xxxxxx(xxx) xxx%      xxxxxx  xxxxxxxx-xxxxxxxx
                                          :
xxxxxxxxxxx        xxxxxxx  xxxxxx(xxx) xxx%      xxxxxx  xxxxxxxx-xxxxxxxx

消去パターン - [xxxxxxxxxxxx]   xxxxx:xxxxxxxxxxx
読出チェック - [xxxxxxxxxxxx]   ログ記録 - [xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx]
名前 - [xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx]   機種名 - [xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx]
メモ - [xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx]
開始時間 - [xxxx/xx/xx xx:xx:xx]    終了時間 - [xxxx/xx/xx xx:xx:xx]
*******************************************************************************
CLEAR-DA データ消去ツール Version x.xx
Copyright (C) Hitachi KE Systems, Ltd.xxxx
*******************************************************************************
```

項目	内容
結果	「データ消去はエラーなしで終了しました。」 ハードディスクにエラーがなくデータ消去は終了しました。 「いくつかのディスクエラーは発生しましたが、データ消去は終了しました。」

	ハードディスクのアクセスエラーが発生しましたが、アクセスエラー箇所をスキップして最後までデータ消去を実施しました。 **「検証エラーが発生しました。データ消去はできていない可能性があります。」** 検証（比較）エラーが発生しました。書き込みデータと読み出しデータが一致していないため、データの書き込み（消去）が正常にできていない可能性があります。
S/N xxxx	ハードディスクのシリアル番号。シリアル番号を取得できない場合は書き込まれません。
レコード区分	消去完了したパーティション名 注）パーティションへの書き込みは該当パーティションの結果のみ

■リムーバブル

ログ情報は次のようになります。

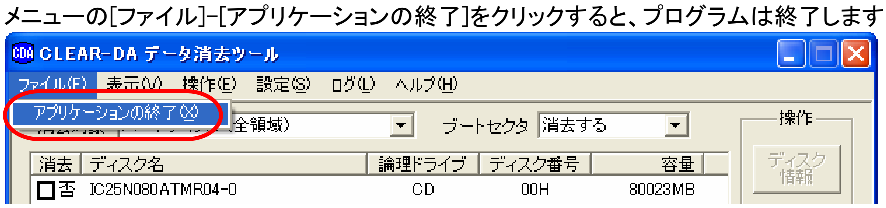
```
******************************************************************************
結果 : xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
******************************************************************************
消去対象 - [リムーバブル              ]  ブートセクタ - [xxxxxxxxxx]
ディスク名                                論理ドライブ      容量     エラー数
xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx         x        xxxxxxxx    xxxxxx

消去パターン - [xxxxxxxxxxxx]   xxxxx:xxxxxxxxxxx
読出チェック - [xxxxxxxxxxxx]   ログ記録 - [xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx]
名前 - [xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx]   機種名 - [xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx]
メモ - [xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx]
開始時間 - [xxxx/xx/xx xx:xx:xx]    終了時間 - [xxxx/xx/xx xx:xx:xx]
******************************************************************************
CLEAR-DA データ消去ツール Version x.xx
Copyright (C) Hitachi KE Systems, Ltd.xxxx
******************************************************************************
```

項目	内容
結果	**「データ消去はエラーなしで終了しました。」** ディスクにエラーがなくデータ消去は終了しました。 **「いくつかのディスクエラーは発生しましたが、データ消去は終了しました。」** ディスクのアクセスエラーが発生しましたが、アクセスエラー箇所をスキップして最後までデータ消去を実施しました。 **「検証エラーが発生しました。データ消去はできていない可能性があります。」** 検証（比較）エラーが発生しました。書き込みデータと読み出しデータが一致していないため、データの書き込み（消去）が正常にできていない可能性があります。
ディスク名	消去完了したディスク名。

2．8 プログラムの終了

(1) メニューの[ファイル]-[アプリケーションの終了]をクリックすると、プログラムは終了します。



３. Windows PE 版の使用方法

Windows PE 版は、CD BOOT 版で消去できない Windows8 セキュアブート環境マシンの HDD 消去を想定しています。

使用するには Windows PE を作成していただく必要があります。

※弊社では Windows PE についてのお問い合わせは受けておりません。あらかじめご了承ください。

３．１　Windows PE の作成

Windows PE 4.0 64bit の作成例を記載します。

管理者ユーザ環境で作成します。

(1)Windows(R) 8 用 Windows アセスメント & デプロイメント キットをマイクロソフトホームページからインストールします。

http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=30652

(2)スタートメニューから「Windows Kits」-「Windows ADK」-「展開およびイメージング ツール環境」を選択します。コマンドプロンプトが開きます。

(3)コマンドプロンプトで以下のコマンドを入力します。

copype amd64 c:¥winpe

c:¥winpe は任意の作業ファイルです。ファイルのコピーが行われ、C:¥winpe にディレクトリが移ります。

(4)以下のコマンドを入力します。

dism /mount-image /imagefile:"c:¥winpe¥media¥sources¥boot.wim" /index:1 /mountdir:"c:¥winpe¥mount"

PE イメージのマウントが行われます。

(5)日本語環境にするための言語パッケージ2つを以下のコマンドによって1つずつ追加します。

dism /image:"c:¥winpe¥mount" /add-package /packagepath:"C:¥Program Files¥Windows Kits¥8.0¥Assessment and Deployment Kit¥Windows Preinstallation Environment¥amd64¥WinPE_OCs¥ja-jp¥lp.cab"

dism /image:"c:¥winpe¥mount" /add-package /packagepath:"C:¥Program Files¥Windows Kits¥8.0¥Assessment and Deployment Kit¥Windows Preinstallation Environment¥amd64¥WinPE_OCs¥WinPE-FontSupport-JA-JP.cab"

インストール環境によってフォルダ名に違いがある場合はインストール環境にあわせてください。

(6)UI 言語を日本語に設定します。

dism /image:"c:¥winpe¥mount" /set-allintl:ja-jp

(7) キーボードを日本語キーボードに変更します。

dism /image:"c:¥winpe¥mount" /Set-InputLocale:0411:00000411
dism /image:"c:¥winpe¥mount" /set-LayeredDriver:6

(8)タイムゾーンを東京に変更します。

dism /image:"c:¥winpe¥mount" /set-TimeZone:"Tokyo Standard Time"

(9)イメージの変更を保存してアンマウントします。

dism /unmount-image /mountdir:"c:¥winpe¥mount" /commit

(10) c:¥winpe¥media フォルダの内容を USB メモリのルートにそのままコピーすると USB 版 Windows PE が作成できます。
また、CD 用 ISO イメージファイルを以下のコマンドで作成できます。
Makewinpemedia /iso "C:¥winpe" "C:¥winpe¥winpe.iso"
winpe.iso を CD イメージライティングソフトで CD-R などに書き込むと CD 版 Windows PE が作成できます。

３．２ Windows PE から CLEAR-DA を起動

(1)作成した Windows PE をマシンでブート起動します。最終的にコマンドプロンプトが表示されます。

(2)CLEAR-DA CD をマシンの CD ドライブにいれ、CD が認識されたらコマンドプロンプトで E:¥WINPE¥CDA.EXE を実行します。（E:¥は CD ドライブです。環境に合わせて変更してください）

(3)以降は「２．２ 消去対象の選択」からの内容と基本的に同じです。違いについては下記をご覧ください。

(4)CLEAR-DA での作業が終了したら、CLEAR-DA を終了して CD を取り出し、マシンの電源ボタンを押し続けることにより電源を切ってください。

■Windows PE 版での違い
(1)ヘルプ（PDF）がありません。
(2)消去設定値は保存できません。
(3)「設定」-「RAID ドライバ組み込み」メニューが追加されています。メニューを選択すると設定ファイル選択画面が表示されます。RAID ドライバに限らず、ドライバの設定（INF）ファイルを指定することにより Windows ドライバを Windows PE 環境に組み込むことが出来ます。ハードディスクが Windows PE 環境で認識されないときにお試しください。
(4)消去ログはデフォルトで Windows PE 環境に保存され、Windows PE を終了すると消えてしまいます。消去前にログ保存フォルダの変更を行い、外部 USB メモリなどに保存するよう設定することをお勧めします。
(5)Windows PE は仕様により 72 時間までしか連続で動作できません。72 時間たつと再起動し、起動時の作業内容が強制終了します。長時間の消去になる場合はご注意ください。

4．エラーメッセージ

・データの読み出しができません。
データ表示において、指定したセクタのデータが読めません。他のプログラムやウインドウを開いている場合は閉じてください。また、NTFS形式でフォーマットされたリムーバブルディスクの場合、FAT形式でフォーマットしなおしてください。

・ディスクにアクセスできません。他のプログラムやウインドウを開いている場合は閉じてください。
指定したディスクにアクセスできず、消去を実行できません。他のプログラムやウインドウを開いている場合は閉じてください。また、NTFS形式でフォーマットされたリムーバブルディスクの場合、FAT形式でフォーマットしなおしてください。

・ドライブ d: メディアがセットされていないか、メディアが認識できません。
リムーバブルディスク装置にメディアがセットされていないか、メディアが認識できません。また、本製品でブートセクタを含めたデータ消去を行うと、メディアの認識ができなくなる場合があります。この場合は、メディアのフォーマットを実施してください。

・書き込み禁止です。ライトプロテクトを解除し、再実行してください。
リムーバブルメディアが書き込み禁止です。ライトプロテクトを解除して、再実行してください。

・ログファイル <ファイル名> の作成に失敗しました。 [再試行] [ｷｬﾝｾﾙ]
ログファイルの作成に失敗しました。[再試行]ボタンをクリックして再試行するか、[ｷｬﾝｾﾙ]ボタンをクリックしてログファイル作成をキャンセルしてください。

・指定したログ保存ディレクトリの読み取り/書き込みができません。
ログ保存ディレクトリ（ログファイル保存先のフォルダ）へのアクセス権がないか、書き込みできないメディアが指定されているか、あるいはディレクトリ名にシフトJISで表現できない文字が指定されています。ログ保存ディレクトリを指定しなおしてください。

・指定したディレクトリは存在しないか、ディレクトリ名に使用できない文字が含まれています。
ログ保存ディレクトリへのアクセス権がないか、あるいはディレクトリ名にシフトJISで表現できない文字が指定されています。ログ保存ディレクトリを指定しなおしてください。

・本製品はコンピュータの管理者権限が必要です。Windowsをログオフし、管理者権限を持つユーザ名でログオンしてください。
Windows XPで本製品をご使用の場合、コンピュータの管理者権限が必要です。Windowsをログオフし、管理者権限を持つユーザ名でログオンしてください。

・本製品が対応していないOSでは起動できません。
Windows NT等、本製品が対応していないOSで起動しようとしました。内蔵ハードディスク等のデータ消去する場合は、OSを使用しないCD BOOT Typeをご使用ください。

・プログラムの起動に失敗しました。このプログラムを初めて実行した場合は、もう一度やり直してください。実行をキャンセルした結果、このメッセージが表示されている場合は異常ではありません。
CD-ROMが読み取れないため、起動できません。
あるいは、日本語Windows Vistaで初めて「ファイル名を指定して実行」で起動したため、このメッセージが表示されました。2回目以降の起動にもかかわらずこのメッセージが表示された場合は、Windowsをログオフして管理者権限のあるユーザでログオンしてください。
あるいは、日本語Windows Vistaで起動する際に、ユーザーアカウント制御の警告画面で[キャンセル]が選択されました。

・レジストリのアクセスができません。プログラムを終了してください。
他のプログラムがレジストリを占有している可能性があります。本製品を終了してください。
全てのプログラムを終了後、本製品を再起動してください。

・ディスク番号の取得ができないため、消去できません。メディアを挿入したまま本プログラムを再起動するか、あるいはメディアを挿入したままWindowsを再起動するとディスク番号を取得できる場合があります。
消去対象が「リムーバブル」であれば一度「ハードディスク」に切り替えてください。「ハードディスク」であれば、一度「リムーバブル」に切り替えてください。それでも消去「可」と表示されない場合は、メディアをディスク装置に挿入したままWindowsを再起動するとディスク番号を取得できる場合があります。

・PDFファイルに関連付けられたアプリケーションが見つかりません。Adobe Readerのインストールをお勧めします。
Adobe® Reader®がインストールされていないため、説明書のPDFファイルを開けません。

・説明書のファイルを開けません。
Adobe® Reader®がインストールされていないため、説明書のPDFファイルを開けません。または、CD-ROM読み取りエラー、メモリ不足などの理由によりAdobe® Reader®を起動できません。

・ディスクサイズを取得できません。
ディスクおよびアダプタが正しく接続されていることを確認してください。また、リムーバブルディスクの場合は、フォーマットすると改善できる場合があります。

・ディスク検証 NGxx です。データ消去を中止しました。
本製品では正しくデータ消去ができないため、データ消去を中止しました。本製品の問い合わせ先にご連絡ください。

5. お問い合わせ等

お問合せ先

株式会社 日立ケーイーシステムズ
〒275－0001 千葉県習志野市東習志野 7－1－1
TEL (047)472-8633
HP URL http://www.hke.jp/

登録商標等

・PC/AT は米国 IBM Corp.の商標です。
・Windows は米国 Microsoft Corp.の米国及びその他の国における登録商標です。
・CLEAR-DA は株式会社日立ケーイーシステムズの登録商標です。
・本製品は日本国内仕様であり、弊社では海外での保守サービス及び技術サポートはおこなっておりません。
・本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法律などの規制をご確認のうえ必要な手続きをお取りください。
・記載されている製品の内容は予告なしに変更する場合があります。